

## 特別寄稿 オーギュスタン・ベルク著「俳句における言葉の露点と景色」の邦訳

臨床心理士・公認心理師・カウンセラ

三村 和子

情報システム構築のプロセスは、概念化のプロセスとみなされる。「言葉の露点」とは、その概念化のレベルを表すものである。「言葉の露点」を提唱したベルク氏は、日本語の露点は欧米の言語と比べて高い状態にある、すなわち概念化があまり進んでいない状態にあると指摘された。情報システムの構築では、最終的に概念化を徹底せねばならず、企画や要求分析を日本語で進めざるを得ないわが国のシステム構築は、露点の低い欧米にはない困難を抱える。

ベルク氏の著した「言葉の露点」に関する表記論文は、情報システム学にとって基本的重要な文献であるが、今まで邦文で読むことができなかった。このたびベルク氏の許諾と校閲を頂き、翻訳が完成、本メールマガジンへの掲載が可能になった。関係者に広く活用して頂くことを期待するとともに、ベルク氏と、翻訳の労をとられた奥田康子氏に感謝申し上げる。

### 1. 邦訳によせて、「言葉の露点」の重要性

「言葉の露点」とは、情報システム学会編纂の『新情報システム学序説』に記されているように、情報システム構築のプロセスは概念化のプロセスとみなすことができ、その概念化のレベルを表すものである。情報システムの構築においては、プロジェクトスコープの共有からシステム化の企画、要求分析などの段階で言語、例えば米国では英語を用い、日本では日本語を用いてコミュニケーションがなされる。

「言葉の露点」を提唱したベルク氏は、日本語の露点は欧米の言語と比べて高い状態であること、その理由として日本文化、とりわけ風土の問題を指摘する。本論文では、俳句においては主語がないにも拘わらず、景色をみている主体は自然と生じるという日本の文化独特の環世界について述べることから始まり、日本語の話し言葉は、「言葉の支配の川上」にあるという。これを情報システムのプロジェクトに当てはめる場合に、米国由来のマネジメント／エンジニアリング手法を露点の差を考慮せずに機械的に翻訳して用いることには、無理が生じると想定できる。

このような状況において、まず「言葉の露点」の考え方を情報システム産業あるいは研究分野などの関係者が認識し、その重要性を理解することが必要である。

### 2. 邦訳までの経緯

『新情報システム学序説』において、「言葉の露点」の概念が情報システム構築にとって重要であるということは示されたが、ベルク氏がどのような文脈において「言葉の露点」の概念を提唱したか、その詳細について既存の日本語文献で知ることはできな

った。そこで、ベルク氏の仏語論文を邦訳することで情報システムのマネジメント／エンジニアリング／メンタルの 3 つのプロセスにおいて、日本語の露点の高さ及び欧米語とのギャップに起因するできごとについて探求し、理解を更に深め、現在生じている情報システムのプロジェクトの問題解明に役立つと確信した。

### 3. IS 技術者の心の問題とのかかわり

「言葉の露点」の概念は IS 技術者が抱える心の問題と密接に関連する。情報システム構築のプロセスにおいて、「言葉の露点」の高低差により生じるコミュニケーション上の困難さが IS 技術者の心のもちように影響を与えると想定される。これが過大なストレスとなれば、IS 技術者が心身の不適応を抱えてしまう可能性がある。

次に、「言葉の露点」の概念は IS 技術者が心身の状態を知覚し、感情をコントロールし言語化するメンタルプロセスの検討にも適用可能である。基礎情報学上の考え方では、IS 技術者の心的システムにおいて生命情報がどのように喚起されるか、IS 技術者の心的システムが社会システムによりどのような制約／拘束を受けるのかという点に HACS の相互作用がある。

今回、幸いにもベルク氏から邦訳への快諾を得て、当学会メルマガ掲載が可能となった。更に、日本語にも堪能なベルク氏による校閲という協力も頂くことができた。情報システム学のみならず、心理学や他の学問分野にとって「言葉の露点」は重要な概念であり、邦訳を発表することは世の中に横たわる様々な問題に真に役立つものであると考える。

最後に、「言葉の露点」が隠喩する世界への探求の道に向けた邦訳という扉を一緒に開けて一歩を踏み出してくださった、ベルク氏、奥田氏、そして邦訳を応援して下さった方々に感謝申し上げます。